KITAIBUKI

北いぶき

No.96
2019.1

青年部沼田支部による食育事業【いただきファーム】で沼田小学校児童と餅つき
一生懸命な子供達をサポートし温かく見守る盟友の皆さん（関連記事19ページ）

代表理事組合長	篠田雅
代表理事専務	黒田洋一
常務理事	澤田浩樹
常務理事	中川幸雄
上席理事兼妹背牛地区代表理事	中谷雄二
秩父別地区代表理事	沼田忠
沼田地区代表理事	宮脇英樹
理事	中易徹
理事	岡部博
理事	徳本一也
理事	小山裕一
理事	向井正浩
理事	横山昌利
理事	堀田勝
代表監事	湯浅博行
常勤監事	笹木義伸
監事	戸田毅
監事	畑地誉
外監事	高田道夫
外職員	同一

新年あけまして
おめでとうございます。

ホームページ　http://www.ja-kitaibuki.or.jp/

JA北いぶき　検索

年頭のご挨拶

北いぶき農業協同組合
代表理事組合長　篠田　雅

新年明けましておめでとうございます。

組合員皆様におかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より農協事業に対しご支援ご協力頂いていますことにお礼申し上げます。

昨年の営農を振り返りますと、六月の低温曇天、七月上旬の集中豪雨による冠水被害、九月上旬には台風による強風被害、翌日には地震による長時間に及ぶ停電により、営農活動はもちろん、生活インフラにまで多大な被害を被ったのは記憶に新しいところです。

震源地周辺においては多くの尊い人命が犠牲となり、改めてお亡くなりになった方々に対し心からお悔やみ申し上げると共に、被災された皆様には心からお見舞い申し上げ、早急な復旧・復興を念願するところです。

この様に昨年の営農活動は近年希に見る厳しい状況下での生産活動となり、ほぼ全ての作物で平年を下回る作柄となりました。基幹作物の水稲においては、作況指数「九〇」の「不良」となったことは、組合員の皆様が一年を通じて懸命に営農活動で流した汗が報われない残念な一年でした。

一方、農業、農協を取り巻く環境は、昨年度より国による主食面積の配分が廃止され、各都道府県における地域農業再生協議会が主体となり「生産の目安」による面積配分がなされたところです。本州の一部の地域では主食面積の拡大方針が報告され、需給バランスに影響することが心配されましたが、結果として全国作況指数「九八」の結果となり、大きな影響を与えることなく「生産の目安」取り組み初年目を終えたところです。

今年度もまもなく「生産の目安」の個人配分がそれぞれの地域農業再生協議会から配分がなされますが、稲作農家全員の理解と協力の下、「生産の目安」が守られ需給バランスが整うことが再生産可能な米価実現に必須であります。政策二年目の今年度の取り組みが今後の需給調整の試金石の年となると思います。

また今年度は、自由貿易対農業の状況は、ＴＰＰ11の昨年度末の発効や欧州とのＥＰＡが早ければ二月にも発効が予想される他、アメリカとの二国間での貿易協定など、実質的な動きが予想され農業に与える影響が心配されます。

本来自由貿易はお互いの国同士不足しているところを補う形で実現されるべきものです。国際条約は締結されると国内法の上位に位置付けされることから、国内制度を条約に沿うよう変更しなければなりません。条約の中身如何では、まさしく「この国の形」が大きく変わっていくことになりかねません。独立国「日本」としての主権を失うことが無いよう注視していかなければならないと思います。

北いぶき管内は過去においても将来に向けても、組合員と共に稲作を基軸に地域農業を描いていくことで、農業に課せられた責任と米産地としての評価をさらに向上することを目指します。

また、その他にも、農業、農協を取り巻く環境は問題が山積されていますが、農協は「組合員」自らが出資をし、利用をし、経営をすることで組合員個々の経営に寄与し、合わせて、地域社会に貢献することを目的とする組織です。

農業、農協を取り巻く環境は常に農政に大きく影響されますが、国民の食と生命を守り、更に多面的機能として国土を守る農業に自信と誇りを持ち、組合員の一致団結した力を農協に傾注することにより、山積する課題に立ち向かわなければならないと思いますので、今後より一層農協事業へのご支援ご協力をお願い致します。

結びに、新しい年が天候に恵まれ、取り組まれる全ての作物が豊穣の出来秋となりますこと、組合員の皆様が幸せ多い一年となることを心より御祈念致しまして、年頭の挨拶と致します。

平成三十一年の年頭に当たり

北海道農業協同組合中央会
会長 飛田稔章

組合員並びにJA役職員の皆様には、輝かしい平成三十一年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。

昨年の北海道農業は、春先は気温も高く、農作物の生育は平年並みで推移しましたが、七月の豪雨や台風二十一号により、農作物の倒伏や落果、農地・農業用施設の損壊など、全道各地域に甚大な被害が発生しました。

更に、九月六日に発生した北海道胆振東部地震により、尊い命が失われると共に、農畜産物や農業施設等に未曾有の被害が発生し、道内全域が停電となる「ブラックアウト」の発生により、組合員の営農やJAグループ北海道・農業関係組織の集出荷、輸送、製造、保管体制に多くの影響が生じてしまいました。

現在、JAグループ北海道を挙げて、一日も早い、復旧・復興に向け、全力でその支援対策に取り組んでいるところであります。

作目別の作況をみますと、米は、作況指数が「九〇」の「不良」、小麦は、天候不順の影響により、収量・品質とも平年を下回る結果、甜菜は、収量・糖度とも概ね平年並み、生乳は、胆振東部地震の影響と、今後は飼料作物の品質低下等による生乳生産への影響が懸念されているところです。

国際貿易交渉については、九月二十七日、日米両国が「日米物品貿易協定」（TAG）の交渉開始に合意したことが発表されました。

今後、TAG交渉において、米国側から過去の経済連携協定で合意した以上の関税引き下げを求められる懸念があるため、その動向を注視していくと共に、農畜産物を犠牲にしない毅然とした対応を求めて参ります。

さて、昨年十一月には、第二十九回JA北海道大会を開催しました。大会では、前回大会の決議事項を継承し、「農業所得増大」と「担い手確保・育成」の加速に取り組むと共に、「サポーターづくり」の活動拡大として、地域を共に支える准組合員の皆様のご意見の把握に、これまで以上に取り組むことを決議しました。

また、協同組合の原点を、改めて見つめ直し、「新たな協同組合」の姿を継続的に討議することも決議しております。今後、組合員の多様な価値観やニーズに対応できる事業運営の展開を検討して参ります。

そして、この三年間の実践期間のうちに、二〇一九年五月には政府が進める「農協改革集中推進期間」の期限、二〇二一年三月には「准組合員利用規制の調査期限」を迎えますが、JAグループ北海道としては、改革は自ら行うものとして、『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』」の実現に向けて、JAグループ一丸となって、大会決議事項の実践を通じた自己改革を進めて参りたいと考えております。

結びになりますが、今年の干支は己亥（つちのとい）です。

亥には、「無病息災」や「安定した状態で始動を待つ準備期間」の意味があるとのことであります。

今年はこの亥年にあやかり、災害が無く、そして組合員の苦労が報われる実り多い豊穣の一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げ、新年にあたってのご挨拶と致します。

年頭のご挨拶

空知農業改良普及センター
北空知支所　支所長　五十嵐　正　彦

新年明けましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より普及センターの活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、平成三十年を振り返りますと、春先の融雪は平年より早く、育苗や植え付け作業は順調に進みました。しかし、六月の低温と日照不足、七月二日の大雨は多くの作物に被害を及ぼしました。

さらに、九月五日の台風二十一号では風害、翌日六日未明に発生した胆振東部地震によるブラックアウト（全停）は、酪農や選果・予冷・出荷などに被害を及ぼしました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

このような気象条件の中で、各作物の生育状況を省みたいと思います。

水稲は、春先の天候にも恵まれ苗の生育は順調で、苗質も良く、移植は早く始まり、活着も良好でしたが、六月の低温と日照不足により、生育が停滞し、平年に比べ茎数が少なく、草丈も短くなりました。その後、七月下旬から八月上旬は高温・多照で、出穂は平年並となりました。しかし、遅れ穂が多く、八月中旬以降の低温により登熟に時間がかかり、成熟期の遅れに伴い収穫作業も遅れました。

収量は、平年より一俵から一俵半程度少なく、圃場間差・個人差が大きい結果となりました。品質は、蛋白質含有量が高く、青未熟粒などでの落等が見られました。気象要因が大きい年でありましたが、より基本技術の励行が必要と思われました。

秋まき小麦は、四月中旬から五月上旬の少雨により追肥効果が弱く、茎数・穂数が少なくなりました。出穂期以降は低温と日照不足により穂数・一穂粒数が十分確保できませんでした。さらに、七月上旬の大雨による根傷みで、その後の登熟が劣り、品質・収量に大きな影響を及ぼしました。

大豆は、出芽後、六月の低温により初期生育が遅れ、ばらつきも見られました。その後も生育は回復せず、着莢数も少なく、品質・収量に大きな影響を及ぼしました。

ソバは、播種後の低温と断続的な降雨により、初期生育が十分確保できませんでした。また、七月の大雨による停滞水は根傷みを起こし、生育が阻害され、品質・収量に大きな影響を及ぼしました。

花きの主力品目である「スターチス・シヌアータ」は、生育は六月の低温と日照不足の影響により遅れましたが、七月下旬から八月上旬の高温・多照で回復し、八月の盆需要期に出荷されました。七・八月は雨が多く、灰色かび病が発生しましたが、適切な防除が実施され、九・十月は安定的な出荷が続きました。出荷量はやや少ないものの、単価が高く販売金額は前年を上回りました。

昨今の農業をとりまく環境は、米国離脱後のＴＴＰ11や日欧ＥＰＡの動きをはじめ、農協改革、米政策改革、農産物輸出の拡大、ＧＡＰ認証の取得、農業ＩＣＴの活用、卸売市場法見直しなど、目まぐるしく農業構造が変化しています。また、地域では高齢化に伴う後継者不足や労働力不足、熟練農業者の技術伝承などが大きな問題となっています。

普及センターでは、地域農業を支える多様な担い手育成、多様化する食市場へ対応した生産力の強化、高付加価値化を創造する農業・農村づくりを基本課題に、関係機関の皆様と連携しながら、現場の声に耳を傾け、知恵を出し合い、地域農業の維持・発展を目指して活動を進めて参ります。

本年が皆様にとって実り多き年となりますよう、ご健勝ご多幸を祈念致しまして、新年のご挨拶とさせて頂きます。

年頭のご挨拶

北いぶき農業協同組合
青年部　部長　岸上敏之

新年明けましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、希望に満ちあふれる新年をご家族お揃いでお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

まず、日頃より我々青年部活動にご理解、ご協力を頂いている組合員の皆様に心から厚くお礼申し上げます。また、三町行政、各関係機関、各関係団体の皆様におかれましても、我々青年部の活動にご理解、ご協力を頂いておりますことに重ねて厚くお礼申し上げます。

昨年の作柄を振り返りますと、基幹作物である水稲では、春先までは順調に推移したものの、六月以降の低温・長雨、更には、九月五日の台風二十一号の発生等により、北空知作況指数「九〇」という十五年ぶりの「不良」という非常に厳しい結果となりました。品質においては、低温による生育の遅れや蛋白の含有率が高い結果になりました。小麦・大豆についても収量、品質共に平年作以下となり所得減少が懸念されます。

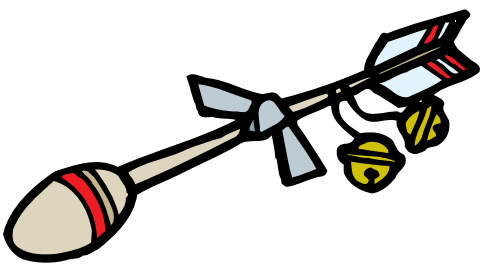
また、農政に目を向けますと、今年度十月からの消費税増税による懸念や、昨年十二月にＴＰＰ11の発行が決定し、日米ＴＡＧの交渉も開始され、今年度の二月には日米ＥＰＡの発行を目指し動き出し、農畜産物等の関税の引き下げ、撤廃等、日本農業を取り巻く環境は非常に厳しく多大な影響を受けることは必至であります。今後の動向を注視し、各関係機関と連携しながら声を挙げ、訴えかけていかなければならないと考えます。

昨年の青年部活動においては、「三支部の絆を結束しこれからの農業に立ち向かう」という活動目標を掲げ、事業展開をして参りました。交流会事業では、本部事業にも積極的な参加を呼びかけ、各支部盟友、農協職員との交流を深めると共に、情報交換の場として活用しています。学習会、研修会、意見交換会では、目まぐるしく変わる農業情勢に対応できる力を養うため、基本的なことから先進的な技術、情報などを学んできました。また、地域や消費者の方へ食の重要性や、農業の魅力を少しでも知って頂くために、ファームレターやスノーメッセージ、米販売促進事業の活動を行いました。こうした地域や消費者の方々との交流などは今後、より一層重要になってくると考えます。

我々農業者を取り巻く環境は、農業情勢、気象条件と大きく変化してきています。そのような状況の中でも、我々には国民に安心・安全な農畜産物を安定的に供給していく責任があると考えます。

その為にも、我々青年部員は諸活動を通じ、仲間を作り、青年部活動をより一層充実させ、時代に合わせた事業展開を図っていきたいと考えます。そして地域社会、地域農業を未来ある子供達につないでいきたいと思います。

最後に、各関係機関、各関係団体の方々のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げると共に、組合員の皆様、青年部の皆様のますますのご健勝でのご活躍とご多幸をご祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせて頂きます。



年頭のご挨拶

北いぶき農業協同組合
女性部　部長　栗原明美

新年明けましておめでとうございます。

組合員の皆様、新春をご家族お揃いでお迎えられましたことをお慶び申し上げます。また日頃より、女性部活動にご理解とご協力を頂いておりますことに、心より感謝致しております。

昨年を振り返りますと、冬場の大雪により春作業の遅れが懸念されておりましたが、天候に恵まれ、春作業、移植作業と順調に進めていくことができ、「大雪の年は豊作になる！」という願いの中、出来秋を迎えることと信じておりました。

しかしながら、移植作業後の低温並びに日照不足による生育不良、そこにきての七月の大雨による洪水被害、逆に生育過程で水分を必要とする後半には、雨量が少なく干ばつ状態になり、収穫目前に台風接近など自然相手の農作物生産の難しさを痛感させられました。

九月六日、まだ外は暗い中、ほとんどの家庭が睡眠中に起こった「胆振東部地震」。携帯の大音量で目が覚めた直後の大揺れに「昨日の台風戻ってきたの？」と、突然起こった現象に戸惑いを覚えましたが、すぐに「地震！」と認識し「子供達は？」と、申し訳ないが夫よりも子供達のことが脳裏に浮かび、携帯の光を頼りに各部屋へ。普段「起きなさい！」という私の大声でもなかなか目の覚めない息子達ですが、二人とも揺れに気付いたらしく起きていました。

停電のためＴＶでの情報は得られず、すかさず携帯ラジオの電源を…しばらく使用していなかったので電池が入っているか不安でしたが電源が入り一安心（日頃から確認しておくべきと大反省）。とりあえず六人家族全員無事、家具や食器類も壊れた様子なし、一先ずソファーで外が明るくなるのを待ちました。

ラジオで情報を聞き、カーナビのＴＶで震源地の状況を目の当たりにして絶句しました。同じ農業者として、収穫間際の水田に大量の土砂が崩れ流出している情景は目を覆うものでした。一年の苦労が…収穫の喜びが…一瞬にして奪われたショックは計り知れないものであったと思われます。死者も多数出ており、被害に遭われた方にこの場をお借りして心よりお見舞い申し上げます。

女性部活動では、各支部での活動がメインでありますが、年に一度、六月下旬に三支部合同の研修会を開催致しております。今年度も六月二十八日、沼田町の施設をバス二台で見学し、同町「まちなかほっとタウン」で懇親会並びに工夫作品展を開催致しました。

ゲーム等を行い、日頃同じ女性部でも、挨拶程度で話す機会のあまりない他支部の方々と触れ合うことができ、楽しい時間を過ごせたことと思います。また、それぞれ手の込んだ素晴らしいお手製の作品の数々に感心したと共に、自分の不器用さを痛感させられました。

十一月八・九日の「第五十四回ＪＡ北海道女性大会・北海道家の光大会」では、「仲間づくりと学習を通じた次世代リーダーの育成」のテーマの下、一日目は家の光活用体験発表・研修・懇親会があり、二日目はＪＡ女性本大会が開催されました。

僭越ではございますが、一日目の家の光活用体験発表に空知女性協を代表致しまして、私が「『絆』　自ら歩み寄り掴むもの　そして繋ぐもの」と題しまして発表させて頂きました。何分未熟な活用体験のため、色々な方にご協力を頂きました。

全道六地区の代表の一人として発表させて頂きましたが、他の方と比べますと、とても薄っぺらな内容で同じステージに上がるのが恥ずかしい程でした。しかし、総勢五五〇名の参加者の前で発表という、なかなか味わえることのできない体験をさせて頂きましたことに感謝し、今後の女性部活動にこの体験を活かしていこうと思っております。

私達農業者を取り巻く国内外の情勢は、現場軽視の改革圧力、更には、ＴＰＰ11、日ＥＵ・ＥＰＡの発行や日米間の新たな物品貿易交渉の開始が迫るなど、国際貿易交渉による国内農業への圧力が絶えません。

このような状況だからこそ、私達女性は農業経営のパートナーとして、「安心・安全」な農作物を作り、提供し、家庭や自らの環境を守り、次世代へつないでいかなければなりません。

女性の力などほんの僅かかもしれません。しかし、一人では僅かな力ですが、「三人寄れば文殊の知恵」ではなく「三人寄れば姦しい」の言葉があるように、女性がタッグを組むと何馬力にも、何万馬力にもなります。同じ目標や思いを共有する仲間と共に、農村に住む良さを実感し、常に明るさを忘れず、協力し合い、心の拠り所になる場所。それが女性部。その思いの中、これからも活動して参りますので、組合員の皆様、各関係機関の方々のより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年も皆様が健康で幸多い一年でありますよう心からご祈念申し上げまして、年頭のご挨拶と致します。

絆 ～THE YOUTH FACE～

今号から広報誌の新しい連載企画として、ＪＡ北いぶき青年部協力のもと、盟友の方々を紹介する記事を掲載致します。そのタイトルは「絆～ＴＨＥ　ＹＯＵＴＨ　ＦＡＣＥ～」です。

タイトルには、地元の基幹産業で日本の礎である「農業」を支え、近い将来、日本を担っていく若い力、よりエネルギーに溢れた青年部の皆さんの農業にかける思いや表情、その結束を多くの方々に知って欲しいといった気持ちが込められています。

記念すべき第一回目は、平成三十年度ＪＡ北いぶき青年部長としてご活躍中の岸上敏之さん（妹背牛・妹背牛北）です。

岸上　敏之さん

妹背牛・妹背牛北農事組合

作付品目　水稲・麦・大豆・花き

稲刈り作業中の岸上さん　天候に左右されながらも刈り取り適期を逃すまいと大忙し

青年部長就任が決定し、青年部活動にかける思いを語る岸上さん（写真中央）

農業を継ぐということ

子供の頃から、両親が農作業をする姿を見たり、手伝ったりしながら「私は農業を継がなければならないのだな」という思いを持って過ごしてきました。就農して八年目、継いだことへの責任の重さを日々色々な場面で感じています。

農業を取り巻く環境が著しく変わる今、その変化に対応するための知識・技術を身に付けていかなければならない責任、国民に安心・安全で高品質な農畜産物を安定的に供給していくという責任、未来の子供達にこの素晴らしい大地を引き継いでいく責任を、青年部長に就任してから特に強く感じています。

青年部長を経験

昨年の青年部は、生業としている農業、そして守るべき家族や仲間、地域社会と、それぞれの将来を見据え、「二支部の絆を結束しこれからの農業に立ち向かう」という目標を掲げ、私自身は部長という非常に責任ある立場の中、多くの仲間に支えられながら共に精一杯活動を行ってきました。

青年部の結束があってこそできる活動があるので、青年部「らしさ」を発揮して、これからも活発に活動を続けていって欲しいと思います。今後は、部長経験者として培ってきたものを後輩達に伝え、未来の青年部につないでいきたいです。

JA役員との意見交換会では青年部の代表として農業・JAへの理解を共有すべく率先して発言

夫、そして父として

私生活では結婚し、父親として子供を授かるという立場になりました。「家族を養っていける農業をしなければならない」という決意と、「今まで以上に頑張っていかなければならない」という意思を持って、大切な家族が安心して暮らしていく為にも農業に邁進していきます！

最後に一言

新企画の第一回目に選ばれて光栄です。これからもこのような青年部の思いを発信できる企画を続けて頂きたいと思っております。ありがとうございました。

第二十九回 JA北海道大会開催

十一月十三日、JAグループ北海道は札幌市内で第二十九回JA北海道大会を開催し、道内各地からJA役員ら約二四〇〇名が参加しました。

今大会のメインテーマは『北海道五五〇万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」』。

大会議案として、二議案が上程された他、JAグループ北海道が協同の力と総合力をフルに発揮し、一丸となった自己改革の取り組みを目指す大会決議、災害からの復旧・復興と持続可能な北海道農業の確立に向けた特別決議が掲げられ、いずれも採択されました。

開催に際し挨拶する飛田JA北海道中央会会長

一号議案では、協同の力で農業所得の増大に向けた取り組みと、担い手を育み支える地域活動の実践を基本目標に掲げ、二号議案では、「食と農でつながるサポーター五五〇万人づくり」を取り組むことで、次代につなげる協同組合の価値と実践を目指すことが掲げられました。

出席したJA関係者

また、特別決議では、先人から受け継いだ農業・組織の基盤のもと、協同活動への更なる結集を図り、一日も早い災害からの復旧・復興を実現すると共に、持続可能な北海道農業の確立に向けて総力を挙げて取り組み、我が国の食料供給基地としての使命を果たしていくことが示されました。

大会前には「あぐり王国北海道NEXT」の放送五〇〇回を記念したプレゼンテーションが披露され、これまでの活動を振り返りました。有識者らによるパネルディスカッションでは、協同組合間の連携等について話し合いが行われ、「協同組合に集まるからこそできることを整理することが新たな価値創造につながる」等の提言がされました。

JA北いぶき 平成三十年度 役員研修

十一月二十八日、JA北いぶきは平成三十年度役員研修として、JA北農ビルにてホクレン米穀部との意見交換を行いました。

JA篠田組合長、駒形剛ホクレン米穀部次長の挨拶後、意見交換の前段に、佐藤直樹同米穀総合課長、熊谷和也同主食課長から、北海道米生産販売の取り組み、北海道水田農業ビジョン、北海道米新ブレンド米商品「合組（ごうぐみ）」について、それぞれ報告・説明がされました。

意見交換においては、北海道米の生産販売に対する意見の他、「北いぶき」の名が入った商品の販売、精米事業や農業所得向上の考え方や取り組み等に係わる要望・質問などが挙げられました。

また、「JA北いぶきはこれからも米を基軸に地域農業を組み立てていく。ホクレン目線で、将来のJA北いぶきに対し提案やアドバイス、期待することを共有認識として持っておきたい」といった意見も挙げられ、多岐に亘って盛んに意見交換が行われました。

役員研修の様子

冬期地区別農事組合別懇談会・女性部との懇談会開催

女性部との懇談会

ＪＡ北いぶきは十二月三～五日、秩父別・妹背牛・沼田各地区農事組合と女性部を対象とした懇談会を開催しました。

懇談会では、平成三十年産農畜産物に係わる販売や精算状況の他、女性部・フレッシュミズ・女性正組合員の加入推進、北いぶき農業の担い手づくり事業、第二十九回ＪＡ北海道大会決議事項、平成三十年度ＪＡ北いぶき満足度調査等、多岐に亘りご説明・ご報告をさせて頂きました。

ご出席頂いた組合員、女性部員の皆様からは、数多くの貴重なご意見やご要望、ご質問をして頂きました。

ＪＡ北いぶきはこれらのご意見等に対し、慎重審議を重ね、事業運営に反映させるべく、最善の努力を尽くして参ります。

沼田地区（沼田西部）

秩父別地区（北新）

妹背牛地区（妹背牛北）

農事組合長会視察研修

十一月六日から九日にかけて、ＪＡ北いぶき農事組合長会（河村五十六会長）の視察研修が実施されました。

初日は夕方に日本を発ち、視察先である香港へと向かい、翌日早朝よりホテルを出発し、視察研修先の「カドーリ農場」を訪問。

広大かつ高低差のある「カドーリ農場」
見て回るだけでもクタクタでした

「カドーリ農場」は、今から約五十年前にカドーリ兄弟によって設立された農場＆植物園で、香港新界地区に位置し、一四八haもの広大な面積で二〇〇名を超える従業

員により、野菜や果実の有機栽培の他、華南地方にしか生息しない生物の保護等に取り組んでいる施設です。

視察研修後は香港市内やマカオを訪れ、人気スポットや歴史的名所を回ることで、香港・マカオの文化や歴史の一端を知り、多くの知識を得ることができました。

視察研修に参加した全員で記念撮影

第30回 空知管内JA青年部 海外農業事情視察研修

JA空知青年部連合会主催の第三十回空知管内JA青年部海外農業事情視察研修が十月二十八日～十一月三日の七日間の日程で行われ、JA北いぶき青年部から、西谷健さん（秩父別・北新）、池川怜太さん（同・穂栄）、寺崎伊織さん（妹背牛・妹背牛南）、神藤武志さん（同・妹背牛北）、桝田浩孝さん（沼田・沼田西部）の五名が参加。空知管内の青年部盟友総勢一六名が、オランダ、ドイツの海外農業視察を行いました。

バーレンセ農場では収穫の様子も見学させて頂きました

最初に訪れたのはオランダ・アムステルダムのバーレンセ農場。総面積三〇haを越える温室ハウス群の中、地熱（温水）を利用してパプリカやミニトマト等が栽培されていました。生産した作物の九五%を日本などに輸出している他、ITを活用した日照管理や収穫補助、地熱利用の自家発電、労務管理などについて説明を受けました。

翌日は、同じアムステルダムの畑作農家を訪問。オランダは地面が海面よりも低いため、畑の排水を周りの低い水路から高く広い水路へ順番に汲み上げており、また、乾燥時には水路から水を取り入れるなど、大規模な排水システムに一同驚かされました。

日本の倍はある大型機械に海外農業の一端を実感

少人数で適期作業ができるよう他の農家と協同で大型機械を導入、省力化を図っている一方、収穫物の出荷・販売や土壌づくりなどに民間会社を利用し、経営の効率化も図っており、日本農業の未来図として深く考えさせられました。

ドイツでは、デュッセルドルフ近郊の農機具販売店、RWZ農業技術センターを視察。ドイツのフェントやアマゾーネ、フィンランドのバルトラなどを扱っており、二〇〇馬力以上の大型機械に圧倒される中、フェントのトラクター

ずらりと並ぶ農業機械　圧巻の一言

を試乗させて頂きました。担当者に機械の導入や整備コストを訪ねると即座に詳細な回答があり、ドイツにおける機械業者と農業経営者の関係性を垣間見ることができました。

研修を振り返り、国ごとの地理的特色や関連産業との協力の仕方などに、日本との違いを感じつつも、将来の日本の農業像の一つとして、多くのことを学ぶことができました。

また、今回の研修で得た知識や経験は、これからの農業経営にとって有意義であり、自身の見識をより高めるものとなると実感しました。

視察研修に参加した盟友の皆さん
RWZ農業技術センターの方と記念撮影

JA空知青年部連合会北ブロック 第三十八回 青年部大会開催

十一月十四日、本所三階大ホールにて、JA空知青年部連合会北ブロック青年部大会が開催され、JA北いぶき青年部から一八名、JAきたそらち青年部から四一名の計五九名が一堂に会しました。

本大会は、空知農協青年部連合会主催・空知管内JA青年部大会の北ブロック代表を選出することを目的とし、併せて、JA北いぶきとJAきたそらちの両青年部間の親睦・連携と組織力の強化に加えて、地域農業の強化を図る為に毎年開催されています。

挨拶をする松本直幸さん（秩父別・穂栄）

大会は、今年度北ブロック代表理事を務める松本直幸さん（秩父別・穂栄）の「今年度は暗い話題もありましたが、青年部活動を活発にし、盟友皆で地域を盛り上げていきましょう」との挨拶で始まり、「大会講演」「JA青年の主張発表大会」が行われました。

岡田准教授による大会講演
興味深い内容に盟友も真剣な様子

大会講演では、拓殖大学北海道短期大学農学ビジネス学科の岡田准教授をお招きし、「平成三十年の水稲生育と国内土壌肥料分野の研究紹介」と題して、本年の水稲生育の状況や上育四七一の生育特性、最近の精米タンパク・玄米品質の傾向、疎植栽培について説明して頂きました。来年の営農を更に発展させる為、盟友の皆さんは真剣な眼差しで、話に耳を傾けていました。

その後のJA青年の主張発表大会では、JA北いぶきを代表して、植田辰徳さん（秩父別・北新）が発表を行いました。審査委員長を務めた普及センター五十嵐支所長からは、「発表の際に表現方法や伝え方が上手く、聞き手側に非常に強いインパクトを与えていた」との講評を頂きました。

大会終了後は同会場で懇親会が行われ、余興に「アームレスリング大会」が実施されるなど、JA北いぶき・JAきたそらち両青年部の更なる連携強化となる一日になりました。

主張発表を行った植田辰徳さん（秩父別・北新）

JA北いぶき青年部 視察研修

JA北いぶき青年部（岸上敏之部長）は十一月八・九日、視察研修を実施し、盟友二九名が参加しました。

研修一日目は㈱日本ニューホランドの農業機械試験農場でもある苫小牧市のファームHFT㈱を視察。試験農場内では、日本ニューホランド社の最新農業機械、GPSを活用した自動操舵技術、ドローンのカメラを利用した圃場管理などの試験や職員研修が行われており、盟友からは導入にかかる経費や採算管理などの質問がされていました。

二日目は、小樽市で段ボールケース等の製造・販売を行う㈱ワコーを視察。同社では、顧客の要望に合わせ段ボールケースや化粧箱を作成しており、工場内では、それぞれの要望通りにプレスやカット、特殊加工を施している様子を見ることができ、盟友は興味深い様子で見学していました。

研修では、盟友同士の情報交換も行うことができ、また、支部間の組織力も一層高まり、非常に有意義なものとなりました。

ケースが製作されていく工程に興味津々

視察研修に参加した盟友の皆さん

JA北いぶき青年部
現地視察・学習会及びJA役員との意見交換会

JA北いぶき青年部（岸上敏之部長）は十一月二十二日、現地視察・学習会及びJA役員との意見交換会を開催し、盟友三六名が参加しました。

今回の現地視察・学習会では、妹背牛町の米穀乾燥調製貯蔵施設（CE施設）を訪れ、JA高野係長より設備概要、集荷から出荷までの作業の流れについて説明を受けました。

次に、実際に使われている機械装置を順を追って見学。施設がどのようにして運用されているかを学び、秩父別地区や沼田地区のCE施設との違いに関心を寄せる盟友の姿が多く見られました。

その後、本所三階大ホールにてJA役員との意見交換会が行われ、盟友からは、良質・良食味米事業への質問、CE施設・野菜集荷施設等の運営に係わる意見、青年部とJA職員とのコミュニケーションについての要望など、農業・JAに係わる様々な質問・意見・要望が挙げられました。

また、九月に発生した台風二十一号・北海道胆振東部地震を受けての今後の災害対策や、今年の作況を踏まえた上での大規模経営・複合経営の進め方等、将来の不安に対し、農家の先輩としてJA役員に助言を求める場面もありました。

交換会終了後は、出席したJA役員を交えて懇親会が行われ、時間の関係上、交換会では伝えられなかった意見や質問をする盟友の姿も見られ、非常に有意義な時間とすることができました。

JA高野係長（写真左）より妹背牛ＣＥ施設の説明を受けました

「営農を行っていく上でアドバイスを頂きたい」
と話す大井基生さん（写真中央、妹背牛・妹背牛中央）

JA役員に要望を伝える桝田浩孝さん
（写真中央、沼田・沼田西部）

JA北海道女性大会・北海道家の光大会開催
栗原明美女性部長が空知代表で発表

十一月八・九日、札幌市ガトーキングダム・サッポロにて「平成三十年度第五十四回JA北海道女性大会・北海道家の光大会」が開催され、今年度は全道より約五五〇名の女性部員が参加しました。

初日は、家の光記事活用体験発表が行われ、JA北いぶき女性部の栗原明美部長が空知の代表として発表しました。

その後は、映画「荷車の歌」を全員で鑑賞。女性の強さを感じさせる内容に皆さん奮起を促された様子。懇親会では、各地の方々との話し合いや名刺交換などをする姿が見られ、交流の深まる懇親会となりました。

二日目は、家の光持ち寄り読書と家の光記事活用体験発表の表彰式が行われ、栗原部長は惜しくも優秀賞でしたが、「内容はとても素晴らしく、発表態度が一番良かった」と審査員の好評を博していました。

栗原明美女性部長（写真前列左から２人目、妹背牛・妹背牛北）が
優秀賞を受賞　空知代表としてしっかりと任を果たしました

JA女性部北ブロック支部長交流会
大福作りで楽しく交流

十月二十九日、JA北いぶき女性部（栗原明美部長）とJAきたそらち女性部による、JA女性部北ブロック支部長交流会が妹背牛町農産加工センターにて開催されました。

交流会では、秩父別町の「加工室TABITA」より岡田実さんを講師にお迎えし、大福作り講習会を行いました。

今回の講習会では二種類の大福作りに挑戦。お餅は北竜産「風の子もち」を使用し、一つ目は黒千石大豆を使用した豆大福、二つ目に深川産のリンゴを使用したリンゴ大福を作りました。大福を初めて作るという方もおり、話をしながら和気あいあいと楽しく工程を進めていきました。

出来上がった大福は「美味しい」「家でも真似して作ってみたい」と大変好評で、講習会後は妹背牛支所に移動し懇親会を行い、終始会話を弾ませ一層の交流を深めていました。

支部長交流会に参加した皆さん

皆で仲良く大福作り
皆さん話をしながら楽しそうに餡子を包んでいました

北育ち元気村花き生産組合 女性研修会開催

十一月十六日、沼田町ほろしん温泉ほたる館にて、北育ち元気村花き生産組合（石田隆広組合長）女性研修会が開催され、管内の女性生産者や関係者等、八二名が参加しました。

冒頭、石田組合長は「六月の低温や多雨、日照不足で生育が停滞した時期もあったが、組合員の高度な栽培技術により、販売高は過去最高の十五億六千万となった」と、参加者に向け嬉しい報告。続けて、㈱大田花きの小杉副社長より、花き情勢について説明がされました。

大草氏（写真左）にアドバイスを求めながら
ブーケ制作にチャレンジ

その後は、東京都にある「青山フラワーマーケット」の大草氏を講師にお招きし、フラワーアレンジ教室を実施。大草氏の説明やアドバイスを聞きながら、バラやユーカリ等の花を使った二種類のブーケを制作し、続けて、ドライフラワーを使ったハーバリウムも制作しました。

参加者は試行錯誤しながら完成させた作品を眺め、大変満足した様子で、最後には懇親会が行われ、お楽しみ大抽選会では当選番号が発表される度、大きな歓声が起こっていました。

素敵なブーケが完成!!

JA谷越職員もハーバリウム制作に挑戦
細かな作業はちょっと苦手!?

ハーバリウムの制作に取り組む皆さん
石田組合長（写真左）も真剣な表情です

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

十一月十三日、JAグループ北海道の役職員はじめ約二四〇〇名が参加し、「第二十九回JA北海道大会」を開催しました。

大会では、将来ビジョン『北海道五五〇万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」』の実現を継承し、重要性を増す「協同組合の価値と実践」を決議しました。協同の力と総合力を発揮し、一丸となって決議事項の実践を通じた自己改革に取り組みます。

決議事項の実践内容や農業・JA・協同組合の意義や価値の発信により、北海道五五〇万人から信頼されるJAグループ北海道を目指します。

JA北海道信連

九月に札幌市において、小学生が社会の仕組みを学ぶ職業体験イベント「ミニさっぽろ」が開催され、JAバンク北海道では金融機関という役割で参加しました。

JAバンクでは、お金の数え方の練習やお仕事体験した子へお給料を支払う仕事を体験してもらい、中には「お金持ちになったみたい」とお札の束を広げる子も…。

未来のサポーターづくりへ、来年以降も参加していきたいと思います。

ホクレン

北海道の味覚を一堂に集めた毎年恒例秋のイベント「二〇一八第四十七回ホクレン大収穫祭」を札幌三越本館で開催しました。

今年はJA北海道女性協議会の「私の心を込めた農畜産物おむすび！」とJA北海道農協青年部協議会の「農業クイズ」などの生産者参加イベントも行われ、大収穫祭を盛り上げ、連日、どの売り場も秋の味覚を求める人々で大盛況でした。

JA共済連北海道

十月二十七日に、ANAクラウンプラザホテル札幌にて、第四十五回目となる「平成三十年度JA共済全道小・中学生交通安全ポスターコンクール」の表彰式を開催しました。

全道より四三四二点の応募を頂いた中から、金賞九作品が選出され、受賞された皆様が表彰されました。

今回受賞された作品は、さっぽろ雪まつり会場・道庁ホールでの展示等が予定されております。

JA北海道厚生連

組合員並びに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

年三回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。

～パネルディスカッション～

テーマ

食と農でつながる五五〇万人サポーターづくりと准組合員制度について

昨年十一月二十一日に札幌市で開催した「JA北海道大会実践フォーラム」では、JA北海道大会（平成二十七年開催）の決議事項の実践機運を高めること等を目的に、『新規担い手倍増』と『道民と食と農でつながるサポーター五五〇万人づくりと准組合員制度』をテーマに取り上げました。

その際に行われた、「食と農でつながる五五〇万人サポーターづくりと准組合員制度について」と題したパネルディスカッションの内容を三回シリーズでご紹介します。今回が最終回です。

●宮入　隆　氏
……北海学園大学教授

宮崎参事に伺いたいのですが、例えば総代会のような場で、JAとして事業の中における准組合員の重みですとか、そういった部分への対策を具体的にお話ししてきてはいるのでしょうか。

●宮崎　俊章　氏
……JAひがしかわ参事（事例発表者）

正直な所、そこまで踏み込んではいないです。利用規制が打ち出されて、仮に利用が現在の半分になったら、今の事業がどうなるか、貯金の残高がどうなるかなど、事業的、経営的な観点から調べたことはあります。

ただ、細かくは分析することはできていないので、もう一度考えてみる必要はあると思います。

宮入教授　各JAにおいてひがしかわのような状況にあるのか、今日をきっかけに准組合員の問題をどう考えるかという議論が起これば良いと思います。それでは最後に皆さんからお一言ずつお願いします。

●森　久美子　氏
……作家　農水省食料・農業・農村政策審議会臨時委員

私が准組合員になって良かったことは、将来の年金の受取口座をJAにした時、羊かんを貰えたことです。他にも例えば、ホクレンショップで割引になるなどのお得感があれば、もっと都市の准組合員も増えると思います。

金井さんのように准組合員になるメリットって何だろうといった疑問は皆さんが持つと思います。でも、何となく北海道の農業を応援したい気持ちもあると思います。先程の発表で、ガソリンスタンドでプレゼントを渡したという話がありました。私は高価なものでなくても、例えばきゅうり一本とかでも良いと思います。その代わり、リボンをつけて、また来てねというシールを貼ると、もらった人はすごく嬉しいはずです。きっとリピーターになってくれるでしょう。

北海道は加工品の原料を作る農村地帯が多いので、北海道のものが材料に入っていることを意識して選んでくれる人を増やさなければならないと思います。

そこで、農業の理解者である都市の准組合員を対象に、移動販売車を札幌にも走らせて欲しいです。毎週でなくても、週替わりで今週はこのJAというように変えて、車内には一品だけでもその町のものを置くという風に。

札幌の買い物難民の数は相当多いです。軒先や団地の前に来てくれたら、喜んで買う人が絶対にいます。そして、「私達のこと忘れないでくださいね」「准組合員辞めないでくださいね」と伝えると、「JAさんはあんな遠い所からでも野菜や牛乳を売りに来てくれた。私たち都市住民を見捨てなかった」と思って頂けると思います。

儲かる儲からないではなく、JAの協同の力をアピールして、消費者を守れるかということが農協の課題ではないかと思います。

●金井　憧れ　氏
……アナウンサー　キャスト・プラス所属

当時あぐり王国を担当することが決まった時に、共演するチームナックスの森崎リーダーに「俺は東京で仕事が連続すると、北海道に早

く戻って畑でエネルギーをチャージしたくなるんだ。憧れにも早くそうなって欲しい」という言葉をかけられました。最初はその言葉の意味がよく分かりませんでしたが、半年ほど番組を担当すると、畑のパワーを本当に実感して、今は東京にいますが「あの時のロケ楽しかったな」「また畑に行きたいな」と強く思っています。

あぐり王国は今年で十年目に突入しましたが、十年も毎週違う農作物、違う話題を取り上げて放送できるほどネタがある北海道農業は本当にすごいと感じますし、北海道物産展や北海道フェアにものすごい数の人が集まっているのを見ると、やはり北海道ブランドの力を感じます。

これからも本当に新鮮でキレイで、そして美味しい農産物、そして皆さんの熱い思いを全国に発信して頂きたいですし、私もできることがあれば何でも力になりたいです。本日は本当にありがとうございました。

●山口　敏文　氏

……北海道生活協同組合連合会副会長（事例発表者）

北海道はまさに協同組合王国であり、協同組合は北海道の第一次産業の強さや豊かさを作る根幹になっている存在だと思います。

これだけ人類が科学技術で色々な成果を挙げた割には、貧困が拡大したり、地球温暖化が進行したりと、非常に希望が無くなってきています。そんな状況だからこそ、協同組合が、安心して暮らせる地域社会づくりに向けて、協同組合間の連携を小さい所から一つずつ積み上げていくべきです。

助け合いの組織である協同組合の精神については中々理解が深まっていないと思います。そこを深める取り組みを今日参加している皆さんにやって頂きたいですし、サポーターづくりの本質はそこにあると思います。

宮崎参事　協同組合を構成する組合員として、正組合員であっても、准組合員であっても、改めてもっと勉強し、理解を深めていくことが必要なのかなと最近感じます。

協同組合の精神を新規で就農される方、後継される方、あるいは准組合員になって頂く方々にどう理解して頂くか、そういう教育の部分について取り組みをしていくことが必要なのかなと改めて感じております。

●高橋　和則　氏

……JA北海道中央会参事

准組合員はJAの事業を支える一翼を担う意味で大切な存在だという認識を正組合員の方々に持って頂くことが大切と感じます。

サポーターづくりは、最終的に行動するサポーターを目指しております。准組合員の皆さんが行動するサポーターになると、JAの事業利用規制は自分達の生活権の侵害であると感じて頂き、事業利用規制を阻止する力として共に行動してもらえる動きに発展していくと思います。それが世論になると、国に対する力になっていくと感じますので、これからも取り組みを進めて参りたいです。

宮入教授　私自身、准組合員利用規制はあり得ないと思います。

しかし、危機感を抱かなければいけない部分もあります。そのためにも、既存の准組合員の方達と意識的に向き合って関わりを深める必要があると思います。その時、准組合員の方だけでなく、正組合員の方達と話す場も重要です。

皆さんも地元に戻った時、准組合員になるメリットとは何か、既存の准組合員の方々に何ができるのか、そこを意識的に考えることが出発点だと思います。

今日のパネリストの皆さんのご意見には、色々なヒントがありましたので、これをきっかけにまずは地元でお話をして頂くことから始まると思います。パネリストの皆様、お忙しい中どうもありがとうございました。

理事会報告

第十回理事会（十一月二十八日付）

【報告事項】

監事会

○会計監査人候補者の決定について

管理本部

○当面における農協行事予定について

○固定資産の取得・処分、主要修繕費の支出について

○組合員の加入・脱退等の申し出について

○自己査定マニュアルの一部改正について

○永年勤続表彰対象者について

○職員の本採用について

金融共済事業本部

○長期資金の貸出し状況について

○平成三十年度ＪＡ共済コンプライアンス点検結果及び改善方針の概要について

○「クミカン収支見込み」の送付について

営農販売事業本部

○うるち米を巡る情勢について

○平成三十年産米空知管内ＪＡ検査入庫状況及び、米施設検査見込数量について

○平成三十年産農畜産物販売支払高見込みについて

○平成三十年産中間米・屑米精算について

○平成三十年産施設調製大豆の仮渡金について

○平成三十年産米集荷奨励対策金の支払について

○平成三十一年営農計画書に係る主食用米販売収入計画について

○平成三十年産うるち米追加概算支払いについて

○平成三十年産花卉・蔬菜の直近取扱実績について

○園芸ハウス導入支援事業の実施状況について

購買施設事業本部

○購買施設事業実績検討表（十月末）について

【決議事項】

議案第一号

上半期決算監事監査に係る回答について

議案第二号

平成三十年度事業収支見込（十月末基準）及び、定時給与（年末手当）の支給について

議案第三号

内部監査規程、並びに内部監査実施要領の一部改正について

議案第四号

コンプライアンス規程、並びにコンプライアンスマニュアルの一部改正について

議案第五号

営農貯金・災害貯金取扱要領の一部改正、並びに当年度末クミカン精算等に係る取り進めについて

議案第六号

理事に対する利益相反取引の承認について

議案第七号

出資金の譲渡について

【協議事項】

○機械銀行廃止に伴う今後の対応について

○第六次農協中期経営計画に基づく「目的積立金」の見直しについて

○平成三十年度年末組合員懇談会の開催に係る日程及び提出議案等について

青年部沼田支部 米消費拡大推進事業

青年部沼田支部（岡田和久支部長）は十一月四日、盟友七名が参加し、札幌市内のスーパーにてＪＡ北いぶき産新米「無洗米ななつぼし」の店頭販売を行いました。

当日は多くのお客様が来店する中、店舗入口二ヶ所でポケットティシュを配布、売り場の盟友と交代しながら新米キャンペーンをＰＲしました。

店頭の特設売り場では、お客様に対し積極的に自分達が作っているお米のことや商品の説明、試食を勧める声かけを行うことで、多くのお客様に新米をご購入して頂きました。中には、「私達が作ったお米です」という声かけで、「それなら買います」と即決で購入して頂いたお客様もいらっしゃいました。

この事業は直接消費者の皆様の声を聞き、考えを知る機会でもあり、また、消費者の皆様にお米を作っている過程や、「安心・安全」に向けた取り組みなどをより深く知ってもらえる大事な事業となっております。

今後とも消費者の皆様とのつながりを大切にしながら、これからの事業を展開して参りたいと考えております。

来店客に積極的にアピール
「僕達が丹精込めて作った自慢のお米、美味しいですよ！」

ポケットティッシュを配りキャンペーンを
PRする前田直樹さん（沼田中部）

青年部沼田支部
沼田小学校で食育事業【いただきファーム】実施

青年部沼田支部（岡田和久支部長）は十一月六日、沼田小学校にて食育事業【いただきファーム】を実施しました。

この事業は、地元の基幹産業の農業について、農業者である青年部と共に作業を行い、学習会で学ぶことで、子供達に美味しい農産物を食べる喜びや、食と農業の大切さを知ってもらうことを目的として毎年実施しています。

今回、全校児童を対象に行ったのは餅つきで、JA女性部沼田支部ご協力のもと、もち米を炊いたり、ごまだれを作ったりと朝から大忙し。餅つきの準備が終わる頃、児童らは体育館に集合。

岡田支部長は「大きな声を出し、体を動かし、いっぱい勉強すること、そして、たくさん食べることは皆さんにとってとても大事なことです」と挨拶し、餅つきを存分に楽しんでお餅をたくさん食べて欲しいことを伝えました。

児童が一生懸命に餅をついていると、周りの児童から体育館に響き渡る程の大きなかけ声で合いの手が入り、皆が一つとなって餅つきを楽しんでいる様子でした。

高学年児童には手返しも体験してもらいました

児童がついたお餅を味付け　不揃いな形はご愛嬌です！

餅つき後は、町の地域おこし協力隊による有害鳥獣についての学習会が行われ、町内にいる有害鳥獣の特徴や見かけた時の注意点等を学びました。その後、青年部による寸劇で児童らの爆笑をさらい、続けて、今年の五年生児童が行った米作り体験学習のムービーが披露されました。

その後は、ついたお餅と沼田町産の食材を使った給食を全員で美味しく頂き、今回の食育事業が終了しました。

女性部沼田支部 一夜研修
ハーバリウムを制作
苦心の作品に大満足！

女性部沼田支部（渡辺美佐恵支部長）は十一月二十七日、沼田町まちなかほっとタウンにて一夜研修を実施し、部員三二名が参加しました。

今回行ったのは、ハーバリウム講習会で、深川市のフラワーサロン「ラリューヌ」より講師にお招きしました。ハーバリウムを初めて作るという方が多く、好きな花材を選んだ後、積極的に講師へ質問しつつ、悩みながらも徐々に工程を進めようやく完成。

参加者からは「思っていたよりも難しかった」という声がたくさんありましたが、完成した作品は、それぞれの個性溢れる満足のいく作品に仕上がったようで、大変好評な講習会となりました。

終了後は、秩父別温泉ちっぷ・ゆう&ゆへ移動し、懇親会で利き味付き水ゲームなどを楽しみました。

完成の姿が見え始め笑みがこぼれる
植木千鶴さん（沼田東部西）

完成を頭で思い描きつつも「花材が多くてやっぱり迷っちゃう」

女性部沼田支部 フレッシュミズ 部員研修旅行

女性部沼田支部フレッシュミズ（横山真弓会長）は十一月十二日、札幌方面にて部員研修旅行を実施しました。

はじめに、「さっぽろ創世スクエア」を訪れ、HTB（北海道テレビ放送株式会社）のブースを見学。移転直後の為、今回局内の見学はできませんでしたが、HTBの番組内で使われていたものなどの展示を見ることができました。

その後、同施設内で行われていた「札幌アート展」を見学し、昼食を「鶴雅ビュッフェダイニング」で優雅に美味しく頂いた後は、市内散策を各々楽しみ、帰路につきました。

研修旅行に参加した皆さん　HTBで記念撮影！

女性部沼田支部 フレッシュミズ 部員研修
ハーバリウム制作にチャレンジ！

女性部沼田支部フレッシュミズ（横山真弓会長）は十一月二十八日、部員研修を実施し九名の会員が参加しました。

今回の研修は、深川市のフラワーサロン「ラリューヌ」より講師を迎え、ハーバリウム講習会を開催。

「前から興味はあったけ

どやる機会がなかった」という声が多く、講師に相談をしながら、各々のイメージを膨らませて作品を仕上げていきました。

完成目前も悩む様子の上村恵美子さん（沼田西部）

完成した作品は、クリスマスをイメージしたものから自分の好きな配色で作ったものまで様々。完成品を見せ合う姿も見られ「またやってみたい」といった声が多くあがっていました。

沼田支所寿会 一夜研修

沼田支所寿会（大西トシ子会長）は十一月一・二日、沼田町ほろしん温泉ほたる館にて一夜研修を実施し、会員一一名が参加しました。

今回の研修は、昨年同様、講師に沼田町役場保健福祉課の松野友迪氏をお迎えしての「健康体操」。頭を使いながら体を動かす運動や筋肉の低下を抑える運動など、幅広く指導して頂きました。

気心知れた仲間と楽しく運動　自然と笑みがこぼれます

これまでも大好評であった松野氏の指導とあって、終始笑顔の明るく学べる研修に皆さんとても楽しそうな様子。椅子に座りながら行う運動だったので「お家でも気軽にできそう」といった声もあり、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

ゴムバンドを使った運動　足の筋力低下を防ぎます

女性部妹背牛支部フレッシュミズ 冬期レクリエーション

女性部妹背牛支部フレッシュミズ会（町田いずみ会長）は十一月六日、会員八名が参加し冬期レクリエーションを行いました。

今回は沼田町ほろしん温泉ほたる館にてバドミントン大会を行い、バドミントン経験者がいない中、皆さん優勝を目指し張り切って試合。次の日の筋肉痛に怯えながらも終始盛り上がりを見せ、皆さん笑顔でとても楽しまれている様子でした。

その後、昼食を食べたあとは歓談をし、より親睦が深められた充実した一日となりました。

激しい運動の後は美味しい食事で
エネルギー補給！

盛り上がったバドミントン大会
目指すは2020東京オリンピック!?

秩父別産新米ななつぼし販促キャンペーン実施

秩父別支所は十一月二十五日、札幌市内ホクレンショップ二店舗にて、秩父別産新米「ななつぼし」を使った米消費拡大のための販売促進キャンペーンを実施、支部青年部・女性部・フレッシュミズ・JAから計一一名が参加し、自ら店頭販売を行いました。

当日は早朝から準備が行われ、開店と同時にキャンペーンがスタート。呼びかけをしながら、来店者に対し試食米の提供などで、秩父別産新米「ななつぼし」の魅力を積極的にPRしました。

今年は米袋のデザインが新調され、秩父別町の象徴である巨大な鐘と秋の稲穂が描かれたパッケージは多くの来店者の目を引き、新米購入者の中には「いつも購入しています。また買いに来ます」と話しかけてくださった方や、試食をして購入を決めてくださった方もおり、たくさんの方々に秩父別産米の良さをアピールすることができました。

また、新米購入者には秩父別産トマトジュース「あかずきんちゃん」を贈り、販売促進と同時に産地のPRも行い、秩父別産米と秩父別町を知ってもらう良い機会となりました。

試食米を提供する福島敦子さん（北新）
来店者もその美味しさに高評価

「僕達が作ったお米、美味しいので是非買ってください！」と来店客にアピールする（写真左から）戸村哲也さん（北新）と宮森康彰さん（同）

青年部秩父別支部 こども園「くるみ」との食育活動

青年部秩父別支部（松本直幸支部長）は十一月十五日、秩父別町認定こども園「くるみ」にて、園児六〇名を対象とした食育活動を実施し、盟友一〇名が参加しました。

当日は、藤岡渡さん（稲豊）が司会を担当。稲の生長と農機具についてのスライドショーを披露し、合間には様々なクイズを出題。ハズレの選択肢が無いクイズには困った表情を見せつつも、園児達は元気な声で答えていました。

また、今年収穫したばかりの農作物に実際に触れてもらうことで、「食に対し興味を持ち、その大切さを知ってもらいたい」と、盟友達の思いを伝えました。

その後は、準備した八種類の食材で超簡単おにぎり「おにぎらず」を作り、園児達に協力してもらいながら、卵焼きのデモンストレーションも行い、全員で美味しく頂きました。

園児達と触れ合い、たくさんの笑顔をもらい、また、食べることへの大切さを伝えられ、とても充実した活動となりました。

園児達と一緒に卵焼きに挑戦　盟友達もドタバタ大忙し

女性部秩父別支部　役員研修「鎌倉市農協連即売所」を訪れました

女性部秩父別支部（藤岡明美支部長）は十一月十八日から三日間に亘り、東京方面への役員研修を実施しました。

今回視察先として訪れたのは「鎌倉市農協連即売所」。鎌倉市内と横浜市長尾台町の生産者が、「自分達で生産した農産物を自ら販売している直売所で、その歴史は八十年以上。神奈川県で最も古い直売所であり、「レンバイ」と呼ばれ地元の方々に大変親しまれています。

現在定期的に出店している農家は二五戸程で、全体を四班に分け、それぞれ四日毎に出店、売り場をずらしながら販売格差が出ないよう工夫がされており、朝十時頃お伺いしましたが、すでにたくさんのお客様で賑わっており、営業が終了する夕方には大体売り切れてしまうとのお話でした。

この視察の他、観光地等の視察・拝観等を行い、役員同士の距離も一層縮まり、充実した二泊三日の役員研修となりました。

役員研修に参加した皆さん　「レンバイ」前で記念撮影

女性部秩父別支部 エルダー部員研修

女性部秩父別支部エルダー（藤岡祐子会長）は十一月二十六・二十七日、旭川方面へ部員研修を実施し、部員一四名が参加しました。

はじめに、本所三階中会議室にて、深川警察署生活安全課の長谷川課長を講師にお迎えし、詐欺講習会を開催。あらゆる手段で金銭をだまし取ろうとするオレオレ詐欺等の特殊詐欺に、どのように対応したらよいのか、ＤＶＤを鑑賞してその知識を深めました。

皆さんにとって他人事ではなく、気を付けていなければならないテーマであったため、講師の問いかけにも進んで発言し、真剣に話を聞いていました。

講習会後は、上川郡東神楽町の「森のゆホテル花神楽」で温泉と食事を楽しんで一泊。翌日はイオンモール旭川西店にて昼食・買い物をして解散となりました。

エルダー初の一泊二日での研修でしたが、特殊詐欺への対策を学び、また、日々の疲れを癒せた良い部員研修となりました。

多様化する特殊詐欺
それぞれの特徴ややり口を知ることで被害を未然に防ぎます！

宿泊先ではミニゲームも開催
大盛り上がりで笑い声が溢れていました

JA北いぶき　永年勤続表彰

JA北いぶきは十一月十九日、平成三十年に勤続三十年並びに勤続二十年を迎えた職員を対象に、永年勤続表彰を行いました。

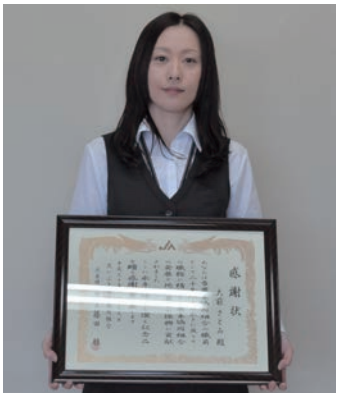
今回対象となった職員は、勤続三十年が一名、勤続二十年が一名で、JA篠田組合長より記念品と感謝状の贈呈が行われました。

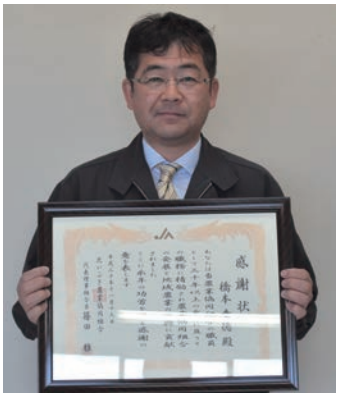
今後におきましても組合員の皆様のお力となるべく、より一層業務に励んで参ります。

なお、今回表彰された職員は次の通りです。

【勤続三十年】
橋本　章徳
（営農推進事業部次長）

【勤続二十年】
大前さとみ
（金融事業部貯金課貯金係長）


勤続20年を迎えたJA大前係長


勤続30年を迎えたJA橋本次長

Contents

●年頭のご挨拶　北いぶき農業協同組合　代表理事組合長　篠田　雅 — 2
●平成31年の年頭に当たり　北海道農業協同組合中央会　会長　飛田　稔章 — 3
●年頭のご挨拶　空知農業改良普及センター　北空知支所　支所長　五十嵐　正彦 — 4
●年頭のご挨拶　北いぶき農業協同組合　青年部　部長　岸上　敏之 — 5
●年頭のご挨拶　北いぶき農業協同組合　女性部　部長　栗原　明美 — 6
●絆　～THE YOUTH FACE～ — 7
●第29回　JA北海道大会開催 — 8
●JA北いぶき　平成30年度　役員研修 — 8
●冬期地区別農事組合別懇談会・女性部との懇談会開催 — 9
●農事組合長会視察研修 — 9
●第30回　空知管内JA青年部　海外農業事情視察研修 — 10
●JA空知青年部連合会北ブロック　第38回　青年部大会開催 — 11
●JA北いぶき青年部　視察研修 — 12
●JA北いぶき青年部　現地視察・学習会及びJA役員との意見交換会 — 12
●JA北海道女性大会・北海道家の光大会開催　栗原明美女性部長が空知代表で発表 — 13
●JA女性部北ブロック支部長交流会　大福作りで楽しく交流 — 13
●北育ち元気村花き生産組合　女性研修会開催 — 14
●JAグループ通信 — 15
●JA北海道大会実践フォーラム～パネルディスカッション～
　食と農でつながる550万人サポーターづくりと准組合員制度について — 16
●理事会報告 — 18
●青年部沼田支部　米消費拡大推進事業 — 18
●青年部沼田支部　沼田小学校で食育事業【いただきファーム】実施 — 19
●女性部沼田支部　一夜研修　ハーバリウムを制作　苦心の作品に大満足！ — 20
●女性部沼田支部　フレッシュミズ　部員研修旅行 — 20
●女性部沼田支部　フレッシュミズ　部員研修　ハーバリウム制作にチャレンジ！ — 20
●沼田支所寿会　一夜研修 — 21
●女性部妹背牛支部フレッシュミズ　冬期レクリエーション — 21
●秩父別産新米ななつぼし　販促キャンペーン実施 — 22
●青年部秩父別支部　こども園「くるみ」との食育活動 — 22
●女性部秩父別支部　役員研修　「鎌倉市農協連即売所」を訪れました — 23
●女性部秩父別支部　エルダー　部員研修 — 23
●JA北いぶき　永年勤続表彰 — 24
●JAの自動車共済　フリーダイヤル安心サービスのご案内 — 25
●年末・年始の営業時間について — 26

JA共済 JAの自動車共済 フリーダイヤル安心サービスのご案内

ご契約の自動車が事故や故障に見舞われたときは

ご契約のJA（業務時間内）もしくは

フリーダイヤル安心サービス

24時間・365日対応

事故等の場合には	JA共済事故受付センター ジコは クミアイ **0120-258-931**
レッカー移動や故障時の応急対応が必要な場合には	JA共済サポートセンター レッカーロードサービスは クミアイ **0120-063-931**

フリーダイヤル　携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

電話料金は無料です。公衆電話につきましては、電話をおかけになる時の10円は必要ですが、かけ終わると戻ります。

JA共済の安心サービス

1. レッカーサービス

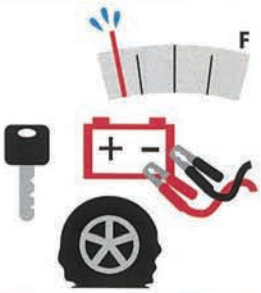
現場から100km以内のけん引が無料！
クレーン作業などの難作業も5万円（税込）まで
JA共済が負担します。

事故または故障により自力走行不能となった場合に、レッカー車で現場へ急行し、最寄りの修理工場等までお車をけん引します。横転、路外逸脱等による難作業も対応します。

2. ロードサービス

30分程度で対応可能な応急対応が無料！

故障・ガス欠等により自力走行不能となった場合に、修理業者が現場へ急行し、お車の応急修理を行います。



事前にJAまたはJA共済サポートセンター（JA共済事故受付センター）に要請された場合に本サービスの対象となります。（ご自身で工場等へ直接手配された場合は本サービスの対象外となります。）

※トラブルの状況や手配内容によっては、ご利用者さまに費用のご負担が発生する場合があります。
※ロードサービスについて、30分を超過した場合の超過時間に応じた作業にかかる費用、部品代・オイル代・ガソリン代等の実費は、サービスご利用者さまのご負担になります。
※JAF会員であるご利用者さまについては、ご利用者さまのご了承のもと、JA共済事故受付センターまたはJA共済サポートセンターからJAFを手配する場合があります。その場合、レッカーサービスのけん引距離については現場から115キロまでのけん引に要する費用をサービス対象範囲とします。ロードサービスの作業時間については30分程度で対応可能な応急対応に要する費用に加え、30分を超過した場合の超過時間に応じた作業にかかる費用について5,000円を限度にサービス対象範囲とします。

3. 夜間休日 現場急行サービス

JAの営業時間外にJA共済事故受付センター（フリーダイヤル）へご連絡いただいた事故について、対応員が事故現場に急行し、事故状況の聞き取りなどを行います。

※本サービスの受付時間は、平日：17時～23時、土日・祝日：8時～23時です。
※事故現場からお電話いただき、ご利用者さまが現場急行をご希望された事故が対象となります。
※原則として、対応員の出動拠点から事故現場まで30分程度で到着できることが条件となります。ただし高速道路上等一部の場所は本サービスの対象外となります。
※JA共済より業務委託を受けたALSOKの対応員が急行します。

4. 夜間休日 初期対応サービス

JAの営業時間外にJA共済事故受付センター（フリーダイヤル）へご連絡いただいた事故について、初期対応専任のスタッフがご利用者さまからの相談対応や相手方への迅速な対応（事故受付の連絡・修理工場への連絡・代車の手配等）を行います。

※本サービスの受付時間は、平日：17時～21時（対応は22時まで）、土日・祝日：9時～21時（対応は22時まで）です。
※対人賠償事故（人身傷害事故含む）、対物賠償事故、車両諸費用保障特約の付いた車両単独事故が対象となります。
※ご契約内容が確認できない場合、既にご加入先のJAの損害調査スタッフが対応中である場合等、本サービスを実施できない場合があります。

5. 休日契約者 面談サービス

JAの営業時間外にJA共済事故受付センター（フリーダイヤル）へご連絡いただいた事故について、休日面談専任のスタッフがご利用者さまを訪問し事故に関するご質問・ご相談に親身にお応えします。

※本サービスの受付時間は、金曜・祝前日：17時～0時、土曜：終日、日曜・祝日：0時～17時です。
※対人賠償事故で、事故の相手方が入院または死亡された場合が対象となります。
※JA共済より業務委託を受けた休日面談専任のスタッフが対応します。

24時間・365日、事故受付とアドバイス、各種サービスが受けられます。

■各種サービス共通の注意事項（サービスのご利用にあたっては一定の条件があります。）
※交通事情、気象状況等により、サービス業者の到着に時間がかかる場合またはサービスのご提供ができない場合があります。
※本資料は各種サービスに関するすべての内容を記載しているものではありません。サービスのご利用条件・提供範囲など、詳細については「ご契約のしおり・約款」等をご参照ください。

18010504030

発行日　平成30年12月21日　発行元　北いぶき農業協同組合　北海道雨竜郡秩父別町1298番地の8　編　集　管理本部　TEL　0164-33-2011　FAX　0164-33-3311　ホームページアドレス　http://www.ja-kitaibuki.or.jp/

● 年末・年始の営業時間について ●

部門 / 月日	事務所（融資経済課 窓口含む） 営農販売事務所（秩父別）	生産資材店舗 農機車輌店舗	貯金共済店舗	ATM		給油所（セルフスタンド）		
				本所（秩父別）	支所（妹背牛・沼田）	秩父別	妹背牛	沼田
12/28(金)	8:45～17:15（仕事納め）	9:00～17:00（仕事納め）	9:00～16:00（仕事納め）	9:00～18:00	9:00～18:00	7:00～20:00	8:00～18:00	7:30～18:00
12/29(土)	休業	休業	休業	9:00～**17:00**	9:00～**17:00**	7:00～20:00	8:00～18:00	7:30～18:00
12/30(日)	休業	休業	休業	9:00～**17:00**	休業	7:00～20:00	休業	休業
12/31(月)	休業	休業	休業	9:00～**12:00**	休業	7:00～**15:00**	8:00～**15:00**	7:30～**15:00**
1/1(火･祝)	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業
1/2(水)	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業
1/3(木)	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業
1/4(金)	休業	休業	9:00～**15:00**	9:00～**17:00**	9:00～**17:00**	7:00～20:00	8:00～18:00	7:30～18:00
1/5(土)	休業	休業	休業	9:00～**17:00**	9:00～**17:00**	7:00～20:00	8:00～18:00	7:30～18:00
1/6(日)	休業	休業	休業	9:00～**17:00**	休業	7:00～20:00	休業	休業
1/7(月)	8:45～**15:00**	9:00～**15:00**	9:00～**15:00**	9:00～**17:00**	9:00～**17:00**	7:00～**15:00**	8:00～**15:00**	7:30～**15:00**
1/8(火)	8:45～17:15	9:00～17:00	9:00～16:00	9:00～18:00	9:00～18:00	7:00～20:00	8:00～18:00	7:30～18:00

㈱まちづくりぬまた 物産サービスセンター	12月31日 1月1日･2日･3日 1月4日以降	8:30～17:30 休業 9:00～19:00
ダ・マルシェ 沼田店	12月31日 1月1日･2日 1月3日以降	9:00 ～ 17:00 休業 9:00 ～ 19:00
㈱ホクレン商事（エーコープ秩父別店）	12月29日･30日 12月31日 1月1日･2日 1月3日 1月4日･5日 1月6日 1月7日以降	9:00～19:00 9:00～18:00 休業 10:00～18:00 10:00～19:00 9:00～19:00 10:00～19:00

※広報誌に掲載された写真及び記事については、JA北いぶきのホームページにて使用させていただく場合がありますので、ご了承願います。